

歴代会長

中西 實



- 40. 8. 13~46. 10. 15
(社)日本労務管理士協会会長
- 46. 10. 14~49. 7. 25
(社)日本社会保険労務士会連合会会長代理
- 49. 7. 26~51. 9. 6
(社)日本社会保険労務士会連合会会長
- 51. 9. 7~53. 6. 23
(社)全国社会保険労務士会会長代行
- 53. 6. 24~現在
(社)全国社会保険労務士会会長

古井 喜實



- 41. 12. 9~46. 8. 24
(社)日本社会保険士会会長
- 46. 8. 25~51. 10. 14
(社)日本社会保険労務士会会長
- 51. 9. 7~53. 6. 23
(社)全国社会保険労務士会会長
- 53. 6. 24~現在
(社)全国社会保険労務士会名誉会長

小川 平二



- 46. 10. 14~49. 7. 25
(社)日本社会保険労務士会連合会会長

(団体設立順)

歴代厚生大臣



内田 常雄
(45・1・14～46・7・5)



斎藤 昇
(43・11・30～45・1・14)
(46・7・5～47・7・7)



園田 直
(42・11・25～43・11・30)



福永 健司
(49・11・11～49・12・9)



斎藤 邦吉
(47・12・22～48・11・25)
(48・11・25～49・11・11)



塩見 俊二
(47・7・7～47・12・22)



渡辺 美智雄
(51・12・24～52・11・28)



早川 崇
(51・9・15～51・12・24)



田中正巳
(49・12・9～51・9・15)



小沢 辰男
(52・11・28～)

歴代労働大臣



野原 正勝
(45・1・14～46・7・5)



原 健三郎
(43・11・30～45・1・14)



小川 平二
(42・11・25～43・11・30)



加藤 常太郎
(47・12・22～48・11・25)



田村 元
(47・7・7～47・12・22)



塚原 俊郎
(46・7・5～47・7・7)



浦野 行雄
(51・9・15～51・12・24)



大久保 武雄
(49・11・11～49・12・9)



長谷川 峻
(48・11・25～49・11・11)
(49・12・9～51・9・15)



藤井 勝志
(52・11・28～)



石田 博英
(51・12・24～52・11・28)

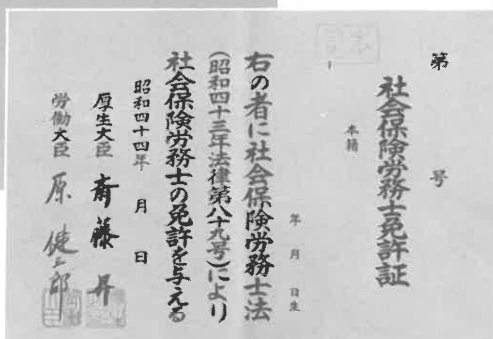
43・4・10 社労士法が国会に提出されたことから、両団体とも法成立のための国会陳情を積極的に展開した



44・6・8 第1回試験に先立ち、全国10都市13会場で経過措置による考査が行われた。その結果、27,854人が資格取得（東京会場となった拓殖大学にて）



44・6・10 法施行後初めて、経過措置
（無審査分）による資格者41,296人が社
労士の免許を取得（東京労働基準局での
免許証交付風景）



44・10・30 社労士の組織を一本化する
ため、初めて社会保険士会と労務管
理士協会が協議会をひらくが、この後、
再開と中断をくりかえす



45・7 免許証交付1周年記念行事として社会保険士会と労務管理士協会が共催で、各種事業を実施。ポスターを作成して行政窓口等に掲出したのはじめ、開業者名簿の配付、1日無料相談所の開設などを行った



46・10・14 東京・虎ノ門共済会館でひらかれた日社連設立総会（あいさつする小川平二会長）





47・10 東京都主催の厚生年金保険法
施行30周年記念事業に日社労（東京都支
部）が協力、街頭年金相談所を開設した

47・10～11 第1回社会福祉視察団、欧
州と韓国へ旅行（日社労）。一方、日社連も
時を同じくして東南アジアへ労働事情視察
団を派遣し、会員相互の親睦を深め、見聞
を広めた



47・12・8 社労士の労働保険指導員委嘱
・諸届用紙の統一・名札掲示板の設置など
を盛り込んだ要望書を日社連が提出、翌年
には日社労が社会保険事務所への名札掲示
板設置を要請（労働省大塚達一審議官に要
望書を手渡す日社連代表）





48・7・15 48年春の話し合いにより、東京・愛知・大阪で両団体共催による第1回受験準備模擬テストを実施（東京会場拓殖大学にて）



48・8 全国に先がけ東京都内23カ所の社会保険事務所に設置された開業社労士専用の名札掲示板。一方、監督署と安定所でも実施、制度のPRをかねて業務の活発化を図ることとなった

48・9・20 安衛法の制定にともなう安全コンサルタントに、社労士特例（筆記試験免除）が認められる（日社連による資格審査委員会）





48・10・14 日社労と日社連との報酬規定改定合同委員会ひらかれる。両団体の代表委員12名（柏木高美委員長）で協議した結果統一化が実現し、同年12月1日から実施された



48・11・30 法施行5周年を記念して、日社連が功労者を表彰（東実健保会館における授与式）



49・4・3 法公布5周年と会の創立10周年行事として催された日社労の記念式典。功労者50名を前に表彰状を読みあげる古井会長（東京・新宿の東京社会保険会館にて）

49・6・3 大阪会の入会でゆれ動き、役員選出でついに流会となった日社連49年度通常総会（事態収拾のため、演壇脇に集合した執行部）



行政機関とのタイアップ行事の一つとして全国的に定着化した算定基礎届時の社労士無料相談コーナー。このほか労働保険の年度更新手続についても協力、社労士の奉仕活動は事業主や行政官庁に高く評価されている。（写真は48年8月、港社会保険事務所の算定会場）

50・1・22 社労士法改正で、日社連は初の都道府県会長会議をひらき、今後の方針を協議（かけつけた長谷川労相が激励）





50・3 中小企業労働条件改善指導員
委嘱のため、日社連は労務管理指導特別
研修会を全国8ブロックで開催。翌年、
受講終了者のうち456名に委嘱される(東
京・税研センターでの終了式)



50・10・28 中断していた両団
体の一本化問題があらためてク
ローズ・アップされ、一本化実
現のひきがねとなった法改正連
絡会議



50・11・7 国際婦人年にちな
み、日社連は婦人カウンセ
ラー入門研修会を開催。20名
の婦人社労士が集まる(カウ
ンセリングの実習を前に梅津
洋作講師の講義を聞く)



51・6・1 数次にわたる協議のすえ、ようやく日社労・日社連間に合意が成立。「団体一本化に関する基本的合意事項確認書」に調印（左から柏木・間瀬日社連副会長、永野日社労副会長）

51・6・3 6・1の調印式を終え両会長が多年の夢達成に祝杯（赤坂プリンスホテル）





51・9・7 野口英世記念会館でひらかれた全国社労士会設立総会（会長就任あいさつを行う古井会長）

設立総会パーティーにて（左から内田・永野副会長、古井会長、中西会長代行、柏木・川口副会長）





52・5・9 法改正で両省庁と初の懇談会(左列手前から幸田総務課長、河野参事官、翁長官(以上社会保険庁)、藤縄事務次官、石井官房長、松井総務課長(以上労働省))

52・10・29 東京・武蔵小山商店街で行われたNHK年金街頭相談に社労士が活躍(右から東京会会員の足沢、杉元、今井の各氏)



52・11・14 川口団長を先頭に、欧州労働事情・社会保障視察団一行43名が羽田を出発



53・2・25 第3回社会保険業務研修受講者一同（社会保険大学校にて）



53・5・11 改正社労士法案、参議院社労委を通過。翌12日本会議において全会一致で可決・成立をみた（附帯決議で説明を行う高杉勉忠議員）

53・1・12 恒例となった新春賀詞交歓会で、社労士法改正実現に“乾杯”（サンプラザ）



全国社労士会本部のある東京・虎ノ門の第六森ビル

